# あれから１年

校　長　　武井　正明

私は親父から殴られたことが一度もない。

私が生まれる前に母は二度流産していた。それを知ったのは私が高校３年の時。母はリウマチに罹って、親戚に病歴がなかったから自分の心掛けが悪いのだと思った。それで祈祷師をお願いしてお祓いしてもらったことがある。その祈祷師の問いに両親が答えるなかで、弟と同時に知った「衝撃の事実」だった。私の前に無事ふたりが生まれていれば、私も弟も生まれていないことになるのだから。
それをおふくろも親父も、ずっと息子たちには言えなかった。言うのが怖かったのかもしれない。それが両親にとって辛い記憶であることは、当時の自分でも理解できた。だからそれ以後もそのことに触れることは一切なかった。弟ともその件を話したことはない。

二度の悲しみを経て、ようやく無事出産叶った待望の長男が、私だったのである。
だから親父は私を厳しく叱ることはなく、お金もないのについつい甘やかし放題で育ててしまった。一方で母親は私に３つも塾に行かせる「教育ママ」だった。

だから幼心に、親父を見下して育った記憶がある。
以前学校だよりに書かせてもらった、父についての忘れられない思い出がある。

あれは小学校４年生。私は学校で嘔吐してしまった。今でいう感染性胃腸炎だろう。昔はそんなことがあっても、たいした騒ぎにならなかった。そういう時代だった。私は何人かが連鎖的に吐いたうちの一人だった。早退して、一晩寝た。

翌朝起きて窓の外を見ると、信じられない光景が私の目に映った。
親父が、私の汚した教科書を洗っていたのだ。
朝もやの庭。水道水で教科書の一枚一枚、ページを慎重に手繰りながら、怖いほど真剣な表情で丁寧に洗っていたのである。私には気付かず黙々と教科書を洗う父…。
私は、教科書なんて新しいのを買えばいいだけなのに、なんで…、と思いながらも、その姿をまともに見ていられなかった…。

そんな私が今、大切な子どもたちの命を預かり、教え導く立場を戴き早 38 年目。
これまで様々な研修をしてきたが、この時の父の行為以上の教育を私は見たことがないし、いまだにやれていないのである。

その父が急逝して昨日でちょうど１年が経った。先日弟家族と一周忌を終えた。
今頃きっと雲上で、贔屓の大の里と巨人にやきもきしていることだろう。